

秋の叙勲・褒章の伝達
(消防関係)

11月10日(金)、揖斐川町役場で秋の叙勲・褒章の伝達(消防関係)が行われました。

瑞宝双光章を受章された橋本利弘さんは、昭和41年に入団し、平成19年度から平成27年度までは消防団長を務めるなど約50年の長きにわたり、地域住民の生命財産を守り、消防団発展のため、献身的に尽くされた功績が認められました。

また、藍綬褒章を受章された伊藤悟さんは、平成3年に入団し、平成27年度からは副団長として地域の安心・安全のために尽力している功績が認められました。

お二方とも受章おめでとございます。



▲橋本利弘さん(写真左)と伊藤悟さん(写真右)

揖斐川町消防団
団員確保で総務大臣感謝状

揖斐川町消防団は、団員の確保に尽力し、地域防災体制を充実させたとして、2年連続で総務大臣感謝状を受けました。

昨年4月に「機能別消防団員制度」を新設し、消防団OBの協力を得ながら団員確保に尽力したことが評価されました。

10月31日(火)、町長へ報告に訪れた野原徹団長は「2年連続で感謝状をもらうことができ、大変嬉しく思う。今後も団員の確保に尽力したい」と話しました。

富田町長は、「町民の安心・安全のため、団員を確保していただき大変ありがたく、心強く感じる」と話しました。



▲写真右 野原徹さん

リリーアンバサダー就任報告

11月2日(木)、ユリの魅力を全国に向けて発信する「リリーアンバサダー」に就任した朝倉聡さんが町長に報告に訪れました。

リリーアンバサダーは、全国各地の生産者や市場・仲卸関係者、生花店などからおおよそ40人が選ばれており、オランダの駐日特命全権大使が認定します。

朝倉さんは、坂内広瀬地区でユリ農家を営む傍ら、フェイスブックなどのSNSでユリの魅力を情報発信してきたことなどが認められ、県内で唯一のリリーアンバサダーに選ばれました。

町長は「朝倉さんの頑張りによってユリが坂内の特産品として認められ、全国へ羽ばたいてくれることを期待している」とエールを送りました。



▲写真右 朝倉聡さん

ライオンズクラブ時計塔寄贈

11月3日(金)地域交流センター「はなもも」で屋外時計塔の除幕式が行われました。

駐車場内に設置された時計塔は、高さ5メートルの電波時計で、揖斐川、美濃大野、池田神戸、本巣のライオンズクラブが行っている合同アクティビティ事業の一環で寄贈されたものです。

4つのクラブを代表して、清水博ゾーンチェアパーソンは「はなももは町の中心施設で住民の皆さんの集いの場でもある。さまざまな行事で活用して欲しい」と話しました。



▲除幕式の様子

未来センター会議 第2回ワークショップ開催

11月26日(日)、「未来センター会議」第2回ワークショップが開催されました。

会議では、第1回ワークショップにおいて出された意見などを振り返り、「みんなのでつくる」「みんなでひろげる」「みんなのでつたえる」「みんながつながる」という4つのテーマを整理し、今後、どのようにして実現、実行していけるのかを話し合いました。

グループ討議では、「人」に着目して「誰を」、「誰と」などについて活動をどうやって、どんなことができるかなど、小さなことからでも活動したいアイデアが多く出されました。

今後は、出された意見などを整理し、アイデアの実施に向けた取り組み方などを検討していきます。



いびがわ産業 フェスティバル盛況

町内の新鮮で美味しい農産物や、魅力あふれる商品やサービスを紹介するいびがわ産業フェスティバルが11月18日(土)、19日(日)に地域交流センター「はなもも」、JAいびがわ本店前の駐車場で開催されました。

この催しは、町、JAいびがわ、商工会、揖斐郡森林組合が連携して主催し、町内外の飲食店や商店、農家など56のブースが出展しました。

揖斐高校普通科ビジネスコースの3年生17人は、販売実習を兼ねて「揖斐高ショップ」を開設し、手作りのクッキーやエコたわしなどを販売し、好評を博していました。

屋外特設ステージでは、さまざまな催しが行われ、会場に訪れた人は足を止めて見入っていました。



▲接客をする揖斐高校の生徒

セントジョージ市との 交流を行いました

11月8日(水)～11月13日(月)の6日間、アメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市から派遣団が来日しました。来日したのはセントジョージマラソンの成績優秀ランナーや地元の中学生などです。

招待ランナーとしてハーフマラソンに出場した3人はいずれも入賞し、フルマラソンに参加した1人は完走しました。

揖斐川町滞在中は、町内のホームステイ先のお宅で日本文化に触れ、日本の生活を満喫しました。また、中学生からは、谷汲中学校を訪れて、生徒同士の交流を深めていきました。

派遣団の皆さんは、揖斐川町の自然や人柄の良さに感動して帰国しました。



▲セントジョージ派遣団の皆さん

セントジョージマラソン 派遣団体験報告

先月号に引き続き、10月に行われたセントジョージマラソン派遣団報告書の一部を掲載します。

総合男子優秀ランナー 宮崎 健司さん
セントジョージマラソンは今回で2回目の参加となりました。前回は途中棄権に終わり、申し訳ない気持ちで一杯でしたので「今度こそ完走するぞ!」とリベンジを誓っていました。

大会当日は、想像していた以上に、下り坂が辛く、ペースも落ちていきましたが、37キロ付近で富田さんと合流して「一緒にゴールしよう!」と声を掛けていただき、最後まで楽しく走ることができました。

総合女子優秀ランナー 富田 光江さん
前半はアップダウンの繰り返しで長い登りがありましたが、沿道の方やボランティアの方から「Good Job!」と声援をいただき、走る元気をいただきました。

足が重くなり始める37キロ辺りで宮崎さんと一緒に走り、一緒にゴールしたい!と思うと走っていることが楽しくなり、目標としていた3時間を切ることができました。

ゴールではバイク市長、揖斐川応援団の方、ホストファミリーが迎えてくださりとても嬉しかったです。

**岐阜県原子力防災訓練
住民避難の手順を確認**

福井県的美浜原発の事故を想定した県の原子力防災訓練が坂内地域の住民を対象として実施されました。

訓練は、原子力防災対策に関係する機関の連携確認や住民への原子力防災意識の普及・啓発を目的として地域住民、町、自衛隊、警察、消防、医療関係者など約700人が参加しました。

坂内地域の住民が自家用車やバスなどで揖斐川健康広場に避難しました。避難先では、車についた放射線の有無を調べる車両用ゲート型モニタを使った検査訓練や、体についた放射線の有無を調べるスクリーニング検査、汚染が確認された場合の簡易除染訓練などを行いました。



▲全身の放射線を測るスクリーニング訓練

**おいしいお米を味わって
清水小学校から尚和園へ**

11月27日（月）、清水小学校の5年生11人が尚和園を訪れ、児童らが「アイガモ農法」で育てたお米を寄贈しました。

清水小学校では、5年生の児童が総合的な学習の時間の中で、近隣農家の協力を得て、田植えから収穫、脱穀までの体験学習を行っています。児童らは、自作のパネルや小道具を使って、アイガモ農法の説明やお米の味わい方など創意工夫をこらした紹介を行いました。

「農薬を使わないアイガモ農法で育てたお米なので安心して食べてください」と想いの込められたイラストが描かれた米袋を入居者に手渡ししました。



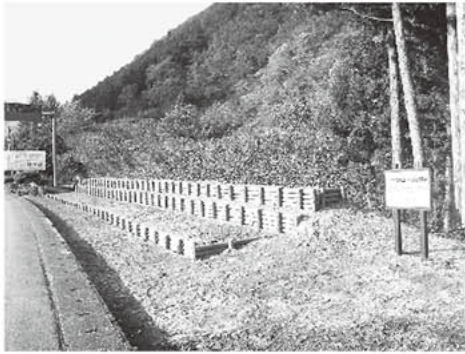
▲児童から入居者へ米袋の受け渡し

**さかうちコミュニティ
花壇を整備しました**

坂内坂本地内の既設木製花壇の老朽化に伴い、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、新たに県産材を使用した花壇を再整備しました。

この花壇は国道303号線沿いにあり、滋賀県方面からの通行車両が多いため、町の玄関口として、多くの人々に四季折々の花でおもてなしをしていきます。

また、花の管理を地元で願うことで、コミュニティの場としての役割を果たしていきます。



清流の国ぎふ

**揖斐川上流に実のなる木を
植えよう大作戦**

11月3日（金）に揖斐川上流に実のなる木を植えよう大作戦が行われました。

この活動は、特定非営利活動法人揖斐自然環境レンジャーが主体となり、平成13年から徳山ダム堤体工事の際に伐採された跡地（通称「コア山」）に野生動物の餌となる実のなる木を植栽し、農作物に被害を及ぼしている野生動物を本来の生息地に呼び戻すことと併せて、水源地域の保全を目的としています。

今回も多くの地域住民の参加があり、コナラ、オニグルミ、トチノキなど約200本の植栽を行い、自然とのふれあいや環境保全の大切さを学習しました。

なお、この活動は、「清流の国ぎふ森林・環境税」の補助を受けて行いました。



▲参加者との記念写真

清流の国ぎふ